みんなの文芸

引間豐作選　投稿数25句

七日粥夫婦椀なと買ひ揃へ　下田野　藤原　道男

（評）何かの節目に若い夫婦の持ち物が、ペアルックになることは世の常としても、その内容は時とともに変わってくる。新婚の頃は衣類から身の廻りの小物までが、外出の折人目にふれ、我が世の春を謳歌するといったことになる。それもいつしか齢を重ねて所帯じみ、家の中の調度品にまわってくる。この句も七草の朝食には古来の野菜を炊き込んだ粥。正月のご馳走続きで胃の具合も疲れ気味。この辺で体調を整えるための古人の智恵にほかならないが、それを機にお椀を買い揃えるとの措辞に羨ましくさえ思う。

前山の木々に霧氷の化粧かな　三沢　真下　杏子
手の届く烏瓜なと探しをり　下日野沢　引間富美子
誕生の至福つたわる初電話　三沢　沢野　恒平
陽光に竹林きらきら霜の中　金沢　青木富佐子
胃カメラの済みて安堵の蜜柑かな　皆野　大沼シヅ子
病む親友と手振りで話す冬至かな　金崎　設楽　武子
御無沙汰の詫び言葉を添へ賀状書く　三沢　新井　叶子
句の友を見舞ふ窓辺や冬紅葉　金沢　関和　トヨ
万両の色艶やかな実を数う　下日野沢　田端　マサ
元日の常より清し日の出かな　三沢　鈴木　キク
初山河故山の土の遠くなり　下田野　藤田　稔
日だまりや枯葉の下の福寿草　皆野　植竹美恵子

中田國太郎選　投稿数17首

在りし日の名前が小さく書かれいる母の物差し縫初に置く　皆野　笠原三江子

（評）家族の絆が崩壊し様々な社会問題が発生しているが、母を思う子の心情がしみじみ詠まれている。母の名前が小さく書かれている物差しを「縫初に置く」と作者は淡々と表現しているが、この結句に母に対する慕情が込められ、いい歌になっている。和裁が盛んだった昔は、正月二日を縫初の日としていたらしいが、母と子の血の絆の上に更に生業としての和裁を継承することは、これ以上強い絆はないと思うのである。鷹羽狩行の俳句。「縫初の針箱母の玉手箱」郷愁を誘う一句である。新井作、養蚕の栄光が繭玉に残る寂しさ。民子作、若菜の瑞々しが沁みる。

廃業をして久しいが今もって繭玉作る粉を碾いたり　皆野　新井　茂
鉛筆でなぞる百首に巡り会ひ若菜を摘みし歌に触れみる　三沢　新井　民子
箱根路に夢抱きたる若人の命をかけし走りに涙す　金崎　山田　雅子
まどろみの中に一首が不図浮かび書かむとすれば思ひ出だせず　三沢　新井　叶子
米寿まで胸つき八丁後二年晩酌二合を堅持し生きん　皆野　金子善次郎
待望の曾孫男の子の誕生に絆たのもし喜喜の初春　皆野　新井　愛子
執念につかむ襷に心賭け箱根駅伝力走称ふ　下日野沢　山本ミチノ
酷寒に耐えて蕾を膨らめる老木梅の強さもちたし　下日野沢　浅見　豊子
祝ぐ言を慎みつつも子ら孫ら集う年始の卓の賑わう　三沢　真下　杏子
幼少の恩師の筆跡変り来て健やかなるかと遠くに案じ　下田野　安井　光代
風呂に浮く柚子と戯むる面白さ童にかえり時間の過ぐるも　三沢　横田ハルジ
時かけてむいてつるした蜂屋柿数えて楽し心広げて　三沢　鈴木　キク

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

皇冴（おうが）くん

出牛区
若林　誠司さん
　　明美さん
元気いっぱいの皇ちゃん。伸び伸びと大きくなってね。

知花（ともか）ちゃん

金崎区
佐宗　幸喜さん
　　佐知子さん
とにかく元気が一番。これからも健やかに。

隼脩（しゅんすけ）くん

根岸区
富田　吉慶さん
　　美穂さん
いつも元気いっぱいの隼くんがパパとママは大好きだよ。健やかに育ってね。

結香（ゆうか）ちゃん

親鼻区
桜井　浩さん
　　香さん
いつもニコニコ笑顔の結ちゃん！優しく健やかに育ってね♡

※満1歳になる赤ちゃんを募集します。3月生まれの赤ちゃんは、2月10日(日)までにお申し込みください。ホームページからも応募できます。